

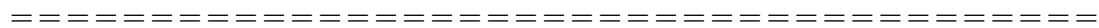


四万十市ふるさと応援団 ニュース《第11号》 2011/4/4

東北関東大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げるとともに被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。



★ 市長からのメッセージ



新年度、四万十市は20名の新入職員を迎えました。

私は、4月1日の辞令交付式で、以下のような訓示（要旨）をしました。

「公務員は公僕と言われます。英語では、PUBLIC SERVANT。「公共の召使い」、「市民への奉仕者」という意味です。

基礎自治体という言葉があります。市町村のことです。災害の時、市民が一番頼りにするのが、市役所、市職員です。県や国ではありません。

東日本大震災では、市職員に求められている役割、使命の極限の姿をまざまざと見せつけられました。

岩手県宮古市では、住民に津波避難を呼びかける放送をマイクで流し続けた女子職員が殉職しました。ほかにも亡くなった職員がたくさんいます。

職員にとっては、住民の避難、安全確保対応が最優先であり、自分の家族が行方不明であつても、探すことはできません。

まさに、自分を犠牲にして、公共のために尽くす。それがわれわれ市職員には求められている姿です。」

四万十市は、震災後、ただちに給水車1台と水道課職員2名を宮城県に派遣しました。続いて、下水道支援技術職員、保健師も同県に派遣しました。

また、見舞金として、市、市議会、三役、管理職互助会で計360万円を岩手、宮城、福島の3県に送金をしたほか、市民に対して、義援金、支援物資、ボランティアなどを呼びかけています。

震災後、応援団員の皆さまからは、多くのメッセージやご報告、あるいは本市の被害（四万十川河口アオサノリ養殖）に対するお見舞いなどをいただき、ありがとうございました。

応援団では、現在、宮城県に3名、福島県2名、茨城県3名の団員がおられますが、ご家族を含めて全員ご無事であることが確認できました。

しかし、家が傾いたり、マンションにひびが入るなどの被害を受けられた方もおられますので、こうした被害を受けられた方には、お見舞いとして、本市産の「土佐ぶんたん」（柑橘）を送りました。

いまもなお、原子力発電所の事故等、深刻で不気味な二次被害の拡大が心配される状況が続いています。

本市としても、災害に対しては、足元をしっかりと見つめ、あわてずじっくりと、いまできることから取り組んでいきたいと思っています。

今後とも、どうぞよろしくお願いをいたします。

2011年4月1日

市長 田中 全

■ ご意見、ご提言の募集

=====
ふるさとの思い出、本市を訪れたときの感想、市政への提言、移住希望者の情報など…
どんな内容でも結構ですので、下記アドレスまで皆さんの意見をお気軽にお寄せください。
件名には「意見〇×〇×〇」と5桁の会員ナンバーを添えて送ってください。

◎ 送信先：furusato@city.shimanto.lg.jp